

富永神社祭礼奉納

と き 平成二年十月十二日(金)
午 後 四 時 始
と ころ 富永神社 能 楽 殿

能 組

国 栖 荒井裕子

仕 舞 西王母 荒井万友美

月宮殿 大岩邦江

狂言 口真似 太郎冠者 松井早苗 主 水野奈津子
客 森谷紗千子

仕 舞 花 籠 今泉英三 太田康弘

狂言 舎 弟 松井一成 兄 柿野成昌
教 手 中嶋基裕

能 杜 若 シテ 今泉利夫
ワキ 太田康弘 大鼓 鈴木正治 太鼓 鈴木崇史
小鼓 森田收 笛 今泉英三

後見 長田邦郎 地謡 中嶋康夫 路野隆
水谷清 松井彬
田中洋二 長田 鈴木 峯

独 調 八 鳥 長田 曉 小鼓 今岡アイ子

狂言 素襖落 太郎冠者 畑中良雄 主 権田重紘
伯父 松井平

舞 囃子 西王母 長田 曉 大鼓 清水利高 太鼓 中嶋康夫
小鼓 福井啓次郎 笛 今泉英三

地謡 田中洋二 太田康弘
松井彬 鈴木 肇

独 調 鞍馬天狗 松井 彬 太鼓 水谷 清

狂言 仁王

シテ 安形 忠久

立衆 教手
小 林 常 男
加 藤 賢 一
中 山 伸 一
西 田 好 夫
酒 井 宏
山 本 憲 吉
原 田 三 男
チンバ 水 谷 至 男

能

通 小町

シテ 鈴木 加奈子
ツレ 榊原 加奈子
肇

ワキ 鈴木 洋市

大鼓 河村 総一郎
小鼓 福井 啓次郎

笛 鹿取 希世

後見 安藤

武

地謡

鈴木 崇史 落野 隆
田中 洋二 松井 彬
森田 收 長田 康
清水 利高 太田 弘

附 祝言

(終了予定 九時頃)

主催 新城能楽社中
本町区

あらすじ

狂言

口真似くちまね

知人から酒、肴を貰った主、程よい相手連れて来る様にと太郎冠者に言い付けます。ところが連れて来たのは、評判の酒乱の者。一計を案じた主人は太郎冠者に、自分の言うようするよう真似をせよと言いつけまします……

狂言

舎弟しやてい

親から貰った名前があるのに、兄からいつも舎弟と呼ばれていた弟、ふと舎弟と言ふことばの意味に不審を抱き早速ものしりの某に尋ねます。某はいたづら心で舎弟とは盗人の事だと教えます。そこで腹の立てた弟が兄の処へまいりまして……

能

杜若かきつばた

諸国一見の僧が都から東国へと志し、旅を重ねて三河国へやって来ます。とある沢辺に杜若の花が美しく咲いているので、思わず見とれていますと一人の里女が現れ、ここは八橋という古歌にも詠まれた名所であり、昔在原業平が東下りの際ここで休み「かきつばた」の五文字を各句の頭において「からころもきつつなれにしつましあればはるばるきぬるたびをしぞおもう」という歌を詠んだという故事を教えてくれます。その上旅僧を自分の庵に案内し、泊まってゆくようにすすめます。やがて女は初冠はつかむりに唐衣からころもを着てその姿を見せにくるので僧は驚いて素性を尋ねます。女は自分が杜若の精であると明かし、また業平は歌舞の菩薩の化現であるので、その詠歌の功德により非情の草木も成仏したと告げ、さらに「伊勢物語」や業平について語り、舞をまいやがて消えてゆきます。そこには紫の花のおもかげが残っているばかりでした。

狂言

素襖落すおうおとし

主人が俄に伊勢参宮をせうと思ひ立ちました。伯父と参宮するならば誘え、同道しよう約束がしてありますので太郎冠者は知らせに行きます。伯父は余り急な事なのでかなわぬ暇入があつて行きません。お供をする太郎冠者の門出を祝つて遠来の酒を出します。余りうまい酒なのでつい過ぎしてしまいます。祝いに貰った素襖の行方は……

狂言

仁王におう

かけごとの好きな男、裏目に出て、家財は申すに及ばず妻子まで打ち込んで裸になってしまった。とても住居もならぬによつて見えぬ国へ行こうと決心するが日頃目をかけて下さるお方に暇乞に行く。行くあてもない男に上野で仁王になって賽銭をかせいだらよかろうと言つて仁王に仕立ててやる。

能

通小町かよいこまち

洛北八瀬の里で夏の仏道修行をしている僧がありました。この僧のもとへ毎日木の実や薪を持って来てくれる女があります。今日もまた訪れて来た女は木の实づくしの物語などしますが僧に素性を問われると小野小町の「秋風の吹くにつけてもあなめあなめ、小野とはいはじ薄生ひけり」という歌の下の句を口ずさみ、市原野に住む姥であるといい残してかき消すように姿が見えなくなります。その言葉つきから小野小町の幽霊ではないかと察した僧は市原野に行き小町の亡き跡を吊います。すると薄の中から小町の亡霊が現れ、僧に授戒を請います。すると深草少將の怨霊が現れ私を残して行くのかと恨み、小町の成仏をさまたげます。僧は深草少將の怨霊に対して懺悔のために百夜通いの様を見せるように説きます。少將は請われるままに雨の夜も、雪の夜も小町を慕って通いながら九十九夜目、恋の成就する喜びの絶頂で死した昔語りを狂おしく再現して見せ、やがて小町も少將も成仏し薄の穂波にかくれてしまいます。

能装束・能面展示会

と き 十月十三日(土) 午前十時より三時まで
と ころ 新城文化会館 和室